

府省名	経済産業省	部署名	大臣官房調査統計グループ 総合調整室
取組者	石原 雅人、服部 友俊、柳原 礼佳、堤 麻里、本間 愛結花、五十嵐 諒、外7名		

取組のポイント

①コミュニケーション活性化による心理的安全性の確保と風通しの良い組織風土の醸成、②無駄な業務の削減による業務負担軽減と超過勤務縮減、③執務室の整理・見直しによる快適さと職員満足度の向上、の各視点から改革を実施した。全員参加型で、具体的な取組としては、テレワーク時の働きやすさ実現に向けたITツールの導入、無駄な業務の洗い出しと改善アイデアの議論・実践、不要物品の断捨離等を進めた。また、アイデアを積極的に採用することで、全員が当事者意識を持てるようにした。

取組概要

【取組の背景】

コロナ渦でのコミュニケーション不足による職員のストレス増加や連携力低下が懸念されたため、新たなコミュニケーションの在り方を検討する必要があった。また、人材確保において重要であるため、超過勤務の縮減を図る必要があった。さらに、執務室の状態が職員の士気低下につながっていたため、レイアウトの見直し等による執務室の魅力向上を図る必要があると認識した。

【取組の内容】

- 新しもの好きタイム（テレワーク時の働きやすさ実現のためのITツールの導入など）
 - ・ IP電話、Teams、Sansanの登録率を100%に
 - ・ 室内会議をTeams開催にすることで、原則顔出しでコミュニケーション
 - ・ 朝夕メールを共有することで、業務状況やコンディションを見える化 など
- 無駄撲滅タイム（無駄な業務を洗い出し、改善アイデアを議論・実践）
 - ・ 会議招集フォーマットを作成し、会議時間を短縮
 - ・ 課室内会議の紙資料の印刷を廃止し、ペーパーレスを推進
 - ・ Outlookへ予定情報を一元化することで、会議設定やコミュニケーションをスムーズ化
 - ・ 「絶対」週一定時退庁日、月一休暇取得を徹底し、業務のメリハリを付けて超勤時間を削減 など
- お片付けタイム（定期的な断捨離の時間を確保し、室内全員で不要品を処分）
 - ・ 利用していない行政文書は、文書情報館へ預け入れ
 - ・ 若手を中心とした「オフィス改善委員会」を結成し、新レイアウトへの改装を計画 など

【取組の成果】

例えば、朝夕メールにより、業務の逼迫状況や、職員の体調不良に全員が気付くことで、自然と気遣うことが出来るようになり、業務の困りごと等も発信しやすくなり、風通しが良くなっている。また、超勤時間が縮減され、執務スペースも広くなり、レイアウト変更の検討が進んでいる。オフィス改善委員会の取組は、グループ内外への情報発信や横展開を実践している。

「みんなで創る！理想の調整室！」とは

- 室内全員で最高の職場を実現するために、3つの企画を始動

新しもの好きタイム

- ・ テレワークを前提とした働きやすさ、コミュニケーションしやすさを実現するために、ITツールやサービスの導入など、様々なアイデアの提案とトライアルを実施

無駄撲滅タイム

- ・ 業務効率化実現のために、日々の業務で不満や違和感を覚えた場面を共有し合い、議論する場を設定

お片付けタイム

- ・ 室内全員参加で片付けることでスペースを拡大し、本館に後れをとらないような機能的な執務室レイアウトへの改装を計画

1

今回の取組の成果（主要なものうち、数値で分かるもの）

- 各企画を通じて得られた時間、スペースを活用して次の取組へ

新しもの好きタイム

- ・ Teams、IP電話（スマホ利用者のみ）、Sansan登録率100%達成！

無駄撲滅タイム

- ・ 超勤時間が一人当たり約7h/月削減！（2021年6-7月平均と8-10月平均で比較）
- ・ 月一休取得率100%達成！
- ・ 紙資料を利用する課室内会議を0に！

お片付けタイム

- ・ 行政文書の約20%を情報館に移管！（全340件中68件を移管）
- ・ 空き箱100個分以上の不要な資料を処分！
- ・ 片付けで不要となった棚や衝立など、約60個を処分予定！
- ・ 全片付けを通じて、室内床面積の約10%（約30㎡）の空きスペースを確保！

2

講 評

働き方改革の基本に取り組んでおり、評価できる。取り組みの継続を期待したい。新しいもの好きタイム、無駄撲滅タイム、お片付けタイムなど時間を設けてそれぞれに取り組む方法は、成果が見えやすく、職員の自発的な取り組みを引き出す有効な動機となると思われる。